

鹿児島県甌島列島下甌島におけるハチクマの渡り

山本兆司

〒552-0021 大阪市港区築港1-7-12-1501

はじめに

近年、ワシ・タカ類への関心の高まりとともに、その渡りについての観察例も多く聞かれるようになりつつある。ハチクマ *Pernis apivorus* についても同様に、春、秋の渡り経路の新たな発見、観察例が報告されている(井上 1998a, b)。特に、秋の渡り経路の1つである中国地方瀬戸内沿岸・北部九州・五島列島へと移動していく経路(武田 1993)については、最近、その観察されたハチクマの個体数の多さから、主要な経路であると考えられている(井上 1998a)。

一方、上記の渡り経路よりは観察されるハチクマの個体数は少ないが、伊良湖岬・紀伊半島・四国地方へと移動していく経路(武田 1993)については、伊良湖岬(愛知県)、日の岬(和歌山県)、佐多岬半島(愛媛県)、高茂岬(愛媛県)、関崎(大分県)などにて、部分的に観察されているものの、連続的な調査は少なく(立川 1994, 1995, 1997a, b, 1999, 伊良湖岬の渡り鳥を記録する会 1995)、四国地方および九州地方以西をも含めた当経路全体像の解明には至っていない。そのなかで、最近の高知市周辺におけるハチクマの渡り観察の報告など(黒岩ほか 1999, 井上 1998c)は、当経路の四国地方および九州地方以西の経路解明に、1つの知見を与えるものと思われる。

しかし、四国地方から九州地方以西へ移動するハチクマが、主要な経路と考えられている五島列島方向へ移動するのかが明らかにされていない。そこで、九州西部から東シナ海へと渡る別の経路が存在するのでは、という仮説のもとに、その渡りの経路にあたと想定される甌島列島の下甌島で、ハチクマの渡りの調査を1999年10月実施した。その結果、数個体ながらもハチクマの渡りが初めて観察されたので、ここに報告する。

調査地および調査方法

調査地は、鹿児島県薩摩郡下甌村手打地区周辺の3か所である(図1)。いずれも当甌島列島・下甌島の中では最南西端部に位置している。

調査期間は、1999年10月3日～5日までの計3日間である。五島列島ではハチクマの渡り

2000年1月10日 受理

キーワード：鹿児島県, 下甌島, ハチクマ, 渡り

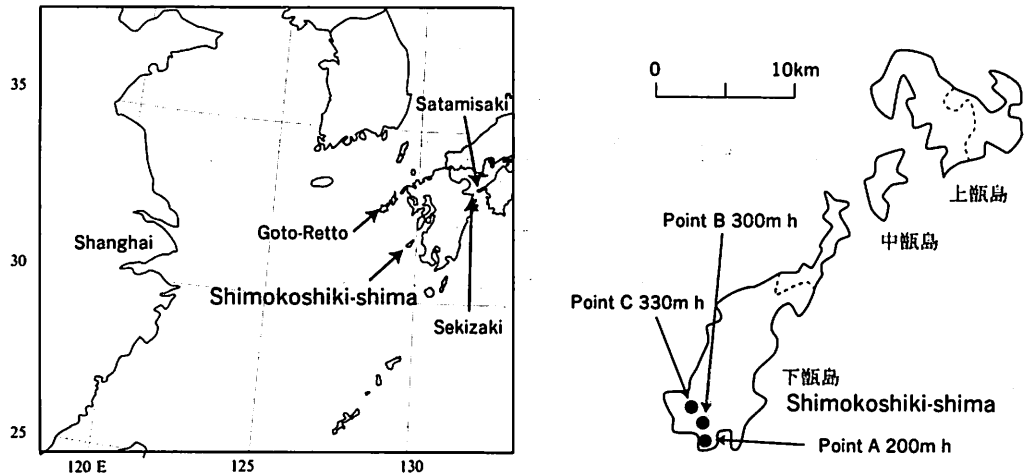


図1. 甌島列島下甌島の位置および調査定点
Fig. 1. Location of Shimokoshi-shima Island.

は9月下旬に最も多く観察されるので(井上 1998a), 9月下旬が最も良い調査時期と考えられたが, 台風18号の影響により調査を行なうことができなかったため, 10月3日より調査を行なった。

10月3日は11:30~17:00に, 釣掛崎灯台に近い標高約200mの展望休憩所(A地点)で調査を行なった。視界は北東~東~南側までひらけているものの, 西側は木立ちにおおわれていて見とおしが良くない。

10月4日は6:00~8:30まで, A地点より北へ移動し, 島の南西端部全体が見とおせる観察地(C地点)で調査した。C地点は, 標高約330mの丘陵地内の盛りあがった地形上で, 牧場地内にあり360度の視界がある。しかし, C地点では, 下甌島の南西端部においてはやや北寄りであり, 仮にハチクマが最も南寄りのコースを移動した場合確認しにくいいため, 南西端部の中央に位置する観察適地(B地点)へと移動し, 8:40~17:00のあいだ調査を行なった。B地点は, 標高約300mで, C地点と同じく西斜面となる丘陵地途中の牧場地内にあり, 北東側が丘陵地の高い方向に当たるのでやや視界がせばまるものの, 北東以外はすべて視界良好である。

10月5日は5:30~10:30に, 同じくB地点で観察した。

調査項目は, 日時, 気象, 種名, 個体数, 飛来, 飛去方向, 年齢(成鳥, 幼鳥の区別のみ), 性別などを主要項目とした。

観察は目視を主体に, 必要に応じて10倍の双眼鏡を使用し, 性別, 年齢の確認と, とくに, 飛去方向については, 30倍の望遠鏡を使用して, 磁石を見ながら方位の確認につとめた。

結 果

観察初日の10月3日は, 天候は晴れて良好のもの全般に北寄りの風が強く, また, 調査

地からの見とおしも良くなかった影響もあってか、ハチクマの渡りは観察できなかった。

10月4日は、天候は早朝やや曇量あるものの安定した晴天であり、途中、観察場所を移動したB地点から、9:55に、A地点付近上空をハチクマ成鳥2羽が旋回して、西南西に飛去するのを観察した。その後晴れ間が広がり、B地点の真上に10:40に淡色形幼鳥2羽、11:23に淡色形幼鳥1羽、11:45に淡色形幼鳥1羽、12:15に淡色形幼鳥2羽が確認された。

この日は計8羽が飛来し、そのうち、飛去の方向が確認できたのは計5羽であり、2羽が西南西方向の海上へ、3羽が真西方向の海上へであった。また、別の1羽については、B地点近くより旋回上昇した後に、いったん真南へ向かったが、数分後飛来方向の北東の山稜へと逆行していった。成鳥、幼鳥の出現数としては、成鳥2羽に対し幼鳥6羽を観察した。

10月5日は同じくB地点で5:30より観察を開始したものの、まもなく小雨の天候となり、ハチクマは観察できなかった。

ハチクマも含めてこの3日間で記録したタカ目は、タカ科6種、ハヤブサ科2種であった(表1)。このうち、西および南の方向に飛去し、渡りの個体と考えられたのは、ハチクマ、アカハラダカ *Accipiter soloensis*、サシバ *Butastur indicus*、ノスリ *Buteo buteo* の4種である。ミサゴ *Pandion haliaetus*、トビ *Milvus migrans*、ハヤブサ *Falco peregrinus*、チョウゲンボウ *F. tinnunculus* の4種については、渡りは確認されなかった。

アカハラダカは飛来方向は特定できなかったが、ほぼ北の方向から飛来し、高く旋回しながら真南の方向の海上へ飛去するのを観察した。ただし、6:30~10:00のあいだに飛去した個体が多く、前日に甌島列島へ飛来していた個体も多いと考えられた。

サシバは大部分、北東の方向から飛来した。これは甌島列島沿いに移動して飛来したと思われるが、B観察地点の上空で旋回後は、アカハラダカと同じく真南の方向の海上へと飛去するのを観察した。また、観察初日には、調査終了後の下山途中に、飛来したばかりと思われるサシバが近くのマツの梢にとまるのを観察した。

ノスリについては北東の方向より飛来し、B観察地点上空を旋回後、ハチクマと同じく真西方向の海上へ飛去するのを観察した。

表1. 渡りを観察したタカ類とその個体数. 括弧内の数字は渡り方向確認個体数.
Table 1. Number of observed migrating hawks.

Species	Number of individuals*			Total
	Oct.3 fine 11:30~17:00	Oct.4 clear 06:00~17:00	Oct.5 rain 05:30~10:30	
<i>Pernis apivorus</i>	0	8 (5)	0	8 (5)
<i>Butastur indicus</i>	1	21 (16)	0	22 (16)
<i>Buteo buteo</i>	0	4 (2)	0	4 (2)
<i>Accipiter soloensis</i>	14+ (2)	23+ (17)	0	37+ (19)
<i>Pandion haliaetus</i>	2	1	0	3 (0)
<i>Milvus migrans</i>	6	8	5	19 (0)
<i>Falco peregrinus</i>	2	2	1	5 (0)
<i>Falco tinnunculus</i>	1	2	1	4 (0)

* (): number of individual that migration direction were confirmed.

考 察

下甌島へは、ハチクマは北東より飛来した。甌島列島は北東から南西方向につらなる3個のおもな島より構成され、とくに列島全体の2/3を占める南部の下甌島を中心に、標高604.3mの尾岳を最高峰とする急峻な山々が連なっている。B地点の観察では、頭上に飛来したすべてのハチクマは、すでにながりの飛翔高度であった。このことは、下甌島の南西端部に飛来する前に、標高の高い山々で、すでに高度をあげているものと思われる。

下甌島からの渡りの飛去方向として観察されたのは真西および西南西であった。この場合、真西の方向のまま飛翔し続けると仮定すると、ほぼ上海市の方向に飛去することになる。井上(1998a)も、五島列島を飛び立ったハチクマが上海に向かうことを示唆しており、それと一致する。

また、五島列島ではハチクマの渡りの開始時刻は日の出直後に集中していたが(井上 1998a)、今回の調査では、早朝での飛去は観察できていない。しばらくは継続観察による飛去時間の確認が必要である。今回観察された下甌島よりの飛去時間帯は、ほぼ10~12時のあいだであり、仮に飛翔速度を時速50kmと考えた場合、下甌島への飛来は約65km北東に位置する九州本土の鹿児島県阿久根市を早朝飛び立っても十分な距離である。しかし、逆に、中国大陸への到着は深夜0時前後となる。

以上、短い調査期間で、わずかな個体数ながらもハチクマの渡りの確認ができたことは1つの疑問点の解消になったと思う。更なる今後の課題としては、

- 1) 四国西部から九州東部へ移動するいくつかの渡りの経路と甌島列島への渡りの経路、あるいは、ほかの渡りの経路との関連についての解明
- 2) 渡り期間中の甌島列島経路上での、ハチクマの総飛去個体数の解明
- 3) 伊良湖岬・紀伊半島・四国地方へと移動する経路上では、渡っていく幼鳥の比率が高いといわれている(森岡ほか 1995, 伊良湖岬の渡り鳥を記録する会 1995, 黒岩ほか 1999)が、甌島列島を経由するハチクマについてのその反映の有無の確認などということについて、いっそうの観察データの充実による検証が必要である。

引用文献

- 井上勝巳. 1998a. 長崎県五島列島福江島を秋期に渡るタカ類. *Strix* 16: 109-120.
- 井上勝巳. 1998b. 春期に長崎県対馬を南下するハチクマとサシバ. *Strix* 16: 171-174.
- 井上勝巳. 1998c. 四国におけるタカ類の渡り—サシバ・ハチクマ・ハイタカ類—. 全国アカハラダカ(ハチクマ・サシバ)の渡りシンポジウム講演要旨集: 12-13. 日本野鳥の会長崎県支部, 長崎.
- 伊良湖岬の渡り鳥を記録する会. 1995. 1994年伊良湖岬の渡り鳥調査報告書. 伊良湖岬の渡り鳥を記録する会, 愛知.
- 黒岩哲夫・橋本裕子・西村俊彦・吉本海男・和田雅典・矢野聖・佐藤重徳. 1999. 高知市におけるハチクマの渡り. *Strix* 17: 119-126.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.

- 武田恵世. 1993. タカの渡りルート. 野鳥(562): 32-33.
- 立川孝之. 1994. 関崎ハチクママラソン調査93-94比較表. 大分県支部報たより(117): 16-17.
- 立川孝之. 1995. 1995秋のタカの渡り通過羽数比較表. 大分県支部報たより(129): 21-23.
- 立川孝之. 1997a. 96年ハチクママラソン結果報告. 大分県支部報たより(142): 14-16.
- 立川孝之. 1997b. 97年恒例関崎ハチクママラソン調査結果. 大分県支部報たより(147): 4-6.
- 立川孝之. 1999. 98年ハチクママラソン調査結果報告と概総評. 大分県支部報たより(154): 6-11.

Migration of Oriental Honey Buzzards from Shimo-Koshiki-shima, an island in southern Japan

Choji Yamamoto

1501, 1-7-12, Chikuko, Minato-ku, Osaka City, Osaka 552-0021, Japan

The migration of Honey Buzzards *Pernis apivorus* was found at the southwestern end of Shimo-Koshiki-shima. The migration was observed for three days from October 3rd to October 5th, 1999. During the observation period, eight Honey Buzzards appeared from a northeasterly direction. I confirmed the directions of the migration for five of eight individuals. Two of them flew west-southwest, and three of them west, out to sea. Of the eight buzzards, two were adults and six were juveniles. I could not conduct the survey during the expected peak of migration in late September, and the number of Honey Buzzards observed was not great; however, the observations suggest a hitherto unknown migration route to the west from the south-western end of Koshiki-shima-Retto.

Key words: Honey Buzzard, migration, *Pernis apivorus*, *Shimo-Koshiki-shima*